九州共立大学　データサイエンス基礎教育プログラム
自己点検・評価の結果（令和６年度）

本学のデータサイエンス基礎教育プログラムの自己点検・評価を「九州共立大学教務委員会」において、実施した結果を以下に示す。

【学内からの視点】

1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムの履修・修得状況について、本学の全学科（経済・経営学科、地域創造学科、スポーツ学科、こどもスポーツ教育学科）の１年生 724 名の内、720 名が履修し、688 名が修了した。

2. 学修成果

本プログラムの学修成果について、各授業回において課題を設け、学修した内容を文章でまとめさせることや、練習問題を解かせることにより、知識の定着を図った。また、最後の授業回においては、学修のまとめとして、レポート（1,500－1,800 字）の提出を履修者へ求めた。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本プログラムの内容の理解度について、履修者全員を対象に「授業評価アンケート」を実施した。授業理解度については、「非常に理解できた」「かなり理解できた」と回答した割合が、全体の 88％であった。今後は、より授業理解度の向上を図るべく、継続的に授業内容を検証していく。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラムの後輩等他の学生への推奨度について、履修者全員を対象とした「授業評価アンケート」の結果では、授業満足度に関し、「非常に満足している」「ある程度満足している」と回答した割合が、全体の 87％であったため、後輩等への推奨度は、非常に高いと考えられる。しかし、本プログラムは、必修科目で構成しているため、令和６年度以降の入学者は、全員履修することとなる。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは、前述のとおり、必修科目で構成しているため、全学生の履修が見込まれる。

【学外からの視点】

1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムは、令和６年度の入学者から開設したプログラムであるため、修了して卒業した学生は現時点ではいない。ただし、本学では既に、卒業生の進路状況に関するアンケート、および進路先に対する意見聴取アンケートを全学的に実施しているため、継続してアンケート結果を検証していく。

2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本学と連携している産業界から、本プログラムは、データの正しい解釈と活用に関する体系的な学修に加え、具体的な事例を用いたグループワークやプレゼンテーションをカリキュラムに盛り込んでいる点は、学生が実践的なスキルを習得する上で非常に有効であると高い評価を得た。また、同産業界から、本プログラムにおいて、データリテラシーの深化と倫理観の醸成、 実践的な学びの強化、および 継続的な学習とキャリアパスを追加することについて提案がなされた。今後は、本プログラムを発展させるため、産業界の提案等を踏まえつつ、検討していく。

（以　上）